

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	1	事業名	社会資本整備総合 交付金事業		路線又は箇所名等		国道296号 八千代バイパス		
事業所管課		道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	平成2年度	用地着手年度	平成3年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成12年度 令和10年度	再評価の理由	再々評価		
費用便益比 B/C	1.8 (11.4)	総費用	190億円 (26億円)	総便益	348億円 (292億円)	基準年	令和4年	供用開始 年度	令和11年

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

国道296号は、千葉県匝瑳市を起点とし、成田市を経て船橋市に至る延長約6.4キロメートルの幹線道路である。

八千代バイパスは、国道16号と佐倉市等との間の交通の分散を図り、国道296号の八千代市域及び佐倉市域の交通渋滞を緩和することにより、京成本線の勝田台駅やユーカリが丘駅へのアクセス性を向上させ、公共交通を支援することを目標とした、国道16号八千代市米本から佐倉市上座に至る延長5.2キロメートルの2車線道路である。

平成2年度に事業着手し、平成20年1月に八千代市側0.7キロメートル（4工区）が、平成24年3月に佐倉市側の2.2キロメートル（2工区）が、平成27年3月に佐倉市側の0.8キロメートル（1工区）が供用した。

【事業の進捗状況】

	計画	R4末見込み	進捗率	R5以降
延長	5.2km	3.7km	71.2%	1.5km
事業費	109.8億円	87.7億円	79.9%	22.1億円
うち用地補償費	53.7億円	53.4億円	99.4%	0.3億円
うち工事費	56.1億円	34.3億円	61.1%	21.8億円

全線供用は、令和11年度を想定している。

【社会経済情勢等】

国道296号の井野交差点と上志津入口交差点は主要渋滞箇所に指定されており、特に、八千代市下市場から佐倉市井野までの区間の旅行速度は上下線ともに平均20キロメートル以下と慢性的な渋滞が発生している。

さらに、本区間における死傷事故率は131件/億台キロと県平均の3.2倍、また八千代バイパス周辺は工業団地が多く立地していることから大型車の交通が多い地域となっており、地域住民の日常生活や経済活動に大きな支障となっているため、地元からの整備促進の要望も高い。

これまで1工区、2工区、4工区の合計3.7キロメートルの部分供用が実現し、本道路の必要性はますます高まっている。

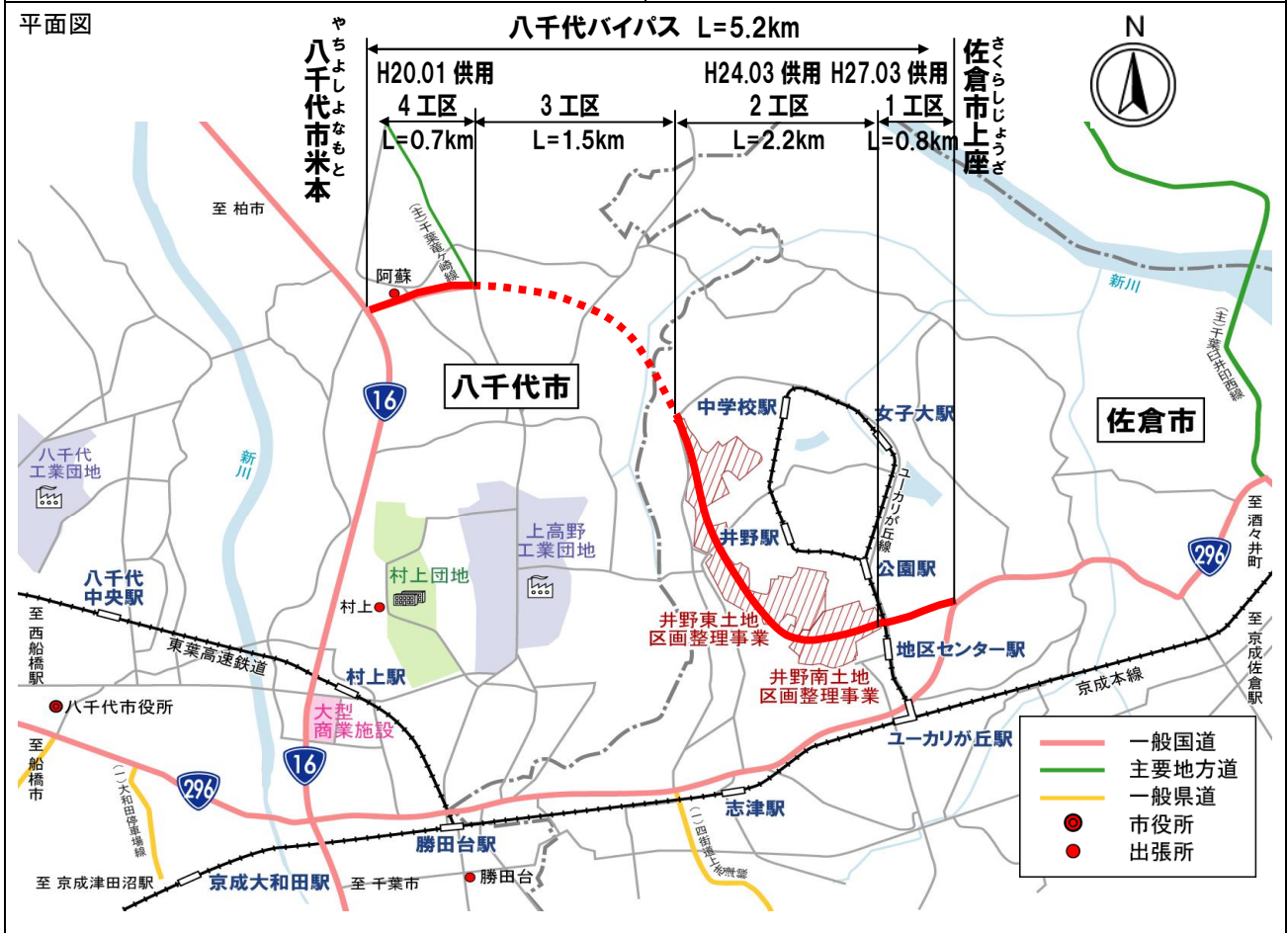
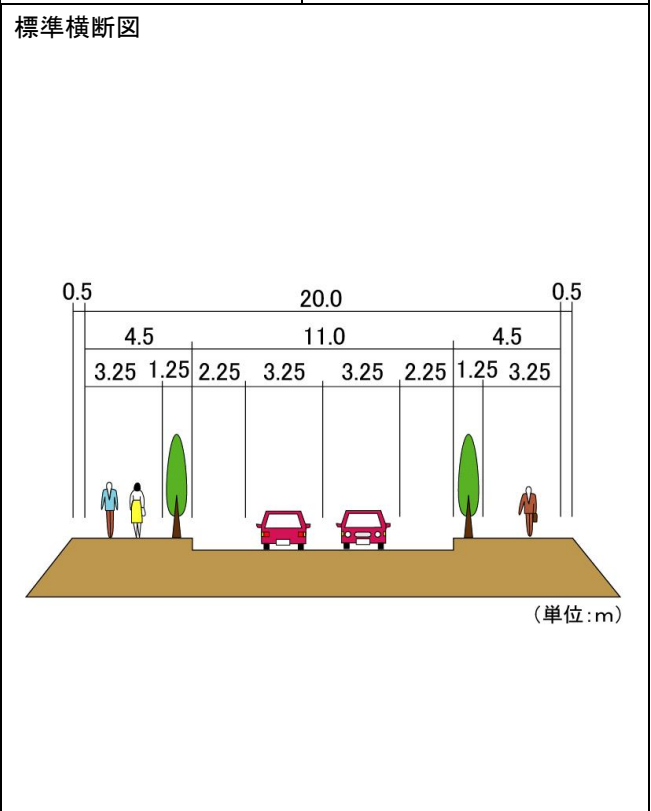
【対応方針(案)】

国道296号八千代バイパスは、事業全体の費用便益比(B/C)が1.8(残事業11.4)であり、事業の投資効果が見込まれる。

整備効果として、道路ネットワークの強化や、交通の転換による交通の円滑化、交通混雑緩和による安全性の向上、移動時間の短縮や定時性の確保による物流の効率化、防災機能の強化などに寄与することから、事業の必要性・重要性が高いため、事業を「継続」し、早期供用に向け事業の推進を図る。

事業概要図

番号	1	事業名	社会資本整備総合 交付金事業	路線又は箇所名等	国道296号 八千代バイパス
位置図					標準横断面図



【別紙様式 5】

再々評価事業に関する調書

番 号	1	事 業 名	社会資本整備総合 交付金事業	路線又は箇所名等	国道296号 八千代バイパス
事業化年度	平成2年度	用地着手年度		平成3年度	
工事着手年度		平成12年度			
【再々評価（H29年度）の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成29年度	供用開始年度	令和8年度	対応方針	継続
B/C	1.9	総費用	146億円	総便益	273億円
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 ○継続することが妥当である。 当時の状況 進捗率は全体82.1%、用地99.3%（事業費） 用地交渉に長時間を要し、事業が遅延している。					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の5年後の進捗状況					
		計 画	進捗状況 (H29)		
事業費		97.5億円	91.4億円(93.7%)		
うち用地補償費		53.7億円	53.7億円(100%)		
うち工事費		43.8億円	37.7億円(86.1%)		
【再々評価（R4年度）の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	令和4年度	供用開始年度	令和11年度	対応方針	継続
B/C	1.8	総費用	190億円	総便益	348億円
現在の進捗状況					
		計 画	進捗状況		
事業費		109.8億円	87.7億円(79.9%)		
うち用地補償費		53.7億円	53.4億円(99.4%)		
うち工事費		56.1億円	34.3億円(61.1%)		
再評価後の 経過 及び 処理状況	平成16年10月 再々評価（継続が妥当である） 平成20年1月 4工区（0.7km）供用（国道16号から千葉竜ヶ崎線間） 平成20年8月 関連する佐倉市「土地区画整理事業区域内」が事業化 平成24年3月 2工区（2.2km）供用 平成24年11月 再々評価（継続が妥当である） 平成27年3月 1工区（0.8km）供用 平成30年3月 再々評価（継続が妥当である）				